

神田外語大学言語科学研究科 公開講座

参加
無料

12月7日 (土)

15:00-16:30

オンライン開催



神田外語大学図書館全景

テーマ

日本語のテンス・アスペクトとテキストタイプ ー日本語教師が知っておくと役に立つことー

講師：岩本 遠億

神田外語大学大学院 言語科学研究科教授

お申し込み方法

右のQRコードまたはURLよりお申し込みください。申込期間終了後にご登録のメールアドレス宛に接続先等の詳細をご案内します。

お申し込みフォーム

<https://forms.gle/vdQnffmht7746z1z7>



お申込期限：12/3 (火)

同日13:30～14:30に本学大学院説明会を開催いたします。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

神田外語大学大学院 入試説明会

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/opencampus/extension/>



お問い合わせ

✉ infograd-kuis@ml.kandagaigo.ac.jp

☎ 043-273-1320

講師プロフィール

岩本 遠億

神田外語大学大学院 言語科学研究科教授



研究分野・研究テーマ

言語学（概念意味論）と日本語文法。

主に、テンス・アスペクトの類型論、語彙・意味論、対照言語学
（日本語・英語・アランプラック語）

研究指導分野

言語学・日本語学（日本語文法、概念意味論、語彙意味論、語用論）日本語と他の言語の比較対照研究（主に文法、意味、語彙、テンス・アスペクト対照など）、日本語教育文法

主要著作

書籍：『事象アスペクト論』（開拓社 2008）、Linguistics: In Search of the Human Mind（編著 開拓社 1999）など。

論文：「テイルの一つの意味」『日本語のテンス・アスペクトを問い直す』（ひつじ書房、2021）、「アスペクトと事象構造の変更—結果持続の類型論に向けて—」『語彙意味論の新しい可能性を探って』（開拓社 2015）、「経路移動事象の両義的限界性と増分性」『レキシコン・フォーラム』No.5（2010）、「日本語とアランプラック語の授益構文」『日本語学』、「シテイルが持つ継続的状态性と結果の意味」『70年代生成文法再認識』（開拓社 2010）、「Inalienable Possession Constructions in Alamlbak」『Linguistics: In Search of the Human Mind』（開拓社 1999）など。

講演要旨

日本語のテンスとアスペクトは、テキストタイプ（「会話」「語り」など）によってその意味機能が異なっていることが知られていますが、日本語教育の現場でそのことが指導されることはほとんどありません。この講座では、日本語の「会話」と「語り」におけるテンス・アスペクトを比較し、両者の違いについて解説します。すでに先行研究によって明らかにされていることも多いですが、講演者自身の分析も織り交ぜながら、日本語教師が知っておくと役に立つ知見を提供します。

